



TOYOTA

流れの
先に

お客様に心から 満足いただける車づくりを トヨタ自動車株式会社 田原工場

トヨタ自動車株式会社は愛知県豊田市に本社を構え、昭和12年に創立しました。従業員69,000人(2014年3月現在)、国内に12の工場をもち2013年の生産は国内で約338万台、海外で約557万台でした。

本号では12工場のうち、豊川用水を利用している田原工場を紹介し、田原工務部安全・環境室環境グループの長谷川さんと山下さんに豊川用水を流れる水がどのように使われているのか、教えていただきました。

トヨタで唯一 エンジン製造から車両組立まで 一貫生産の田原工場

田原工場は、昭和54年に生産を開始しました。敷地面積370万 m^3 (東京ドーム約85個分)、従業員数8,600人(2014年12月現在)、生産車種はレクサス(LS、GS、IS、RC、RCF、GX)、ランドクルーザー、ランドクルーザープラド、4RUNNER。

工場の特長は「トヨタで唯一素形材部品から最終組立まで車を作る主な工程がすべてそろっている総合一貫工場」で、昨年度の生産は車両



エンジン

が約37万台、エンジンは約36万基、1日に換算すると1,000台以上製造していることとなります。驚くべき生産数です。



レクサス



ランドクルーザー プラド

車両づくりにはたくさんの水が不可欠

おふたりに、田原工場で水を使用している工程の案内をお願いし、最初に最も使用量の多い「ボ

ディ塗装工程」へ…。



ボディー塗装工場にて



塗装工程（ボディー洗浄）

通り過ぎる従業員のみなさんが明るく「こんにちは！」と挨拶をしてくる中、現地に到着しました。

ここでは、

シャワー状の水でホコリや余分な塗料を流した後、専用ロボットが丁寧に車両の塗装を行いました。このロボットは複数車種の様々なカラーを塗装可能とのこと。「田原工場で使うほとんどの水は、豊川用水等を通して届けられる工業用水です。ここに運ばれてから実際に自動車になるまでに、1台あたり5.5トンもの水を使っています。また、車両は多くの部品で組み立てられており、その部品を製造する協力会社でも製造工程で水が使われています。自動車ができるまでに水は欠かせません。」と長谷川さんは話します。

昨年の渇水時、改めて水の大切さを認識

平成25年の7月から9月にかけて、少雨の影響で豊川水系は渇水となり、特に水源である宇連ダムの貯水率は0.8%にまで低下し、最大で4割の取水制限が実施されました。「あの時、渇水が続けば最悪の場合、生産数を減らして対応する事を検討しました。水がなければ車を作ることができませんから…」と振り返る長谷川さん。幸いにも9月にまとまった降雨があり、取水制限は解除されましたが、改めて水の大切さを認識したそうです。

「日本では水が安価なため、今まで水のリサイクルは実施していませんでしたが、昨今の渇水等をふまえて節水やリサイクルの検討をしていかなばな

らないと感じています。工場内で使われた水は敷地内の“排水処理場”で基準値未満まで浄化してから海に流されていますが、今後はその水を再利用できる仕組み作りを考えていきたい」との事でした。

最後に新車特有の匂いで胸がときめく“レクサスの組立工場”を見学させていただきました。ワイパーチェックのシャワーを浴びたレクサスは「お客様に心から満足いただける車」として最後の検査工程を通過していきました。



検査工程（ワイパー機能テスト）

トヨタ自動車「陸上長距離部」は田原工場を拠点に活動しています。

大会には多くの社員が現地に駆けつけ応援しています。

HP：<http://sports.gazoo.com/long-distance/>



2014年ニューイヤー駅伝の集合写真（応援で社員の気持ちはひとつに！）

応援をよろしく
お願いします！

●工場見学のご案内●

- ①見学可能日：1月～8月
(9～12月は小学生社会見学専用期間)
- ②見学内容：組立ライン(ランドクルーザーなどの組立・検査)・専用埠頭
(詳細は、トヨタ自動車様ホームページをご確認ください)

読者プレゼント

オリジナル
「LEDミニライト」を
5名様



トヨタ自動車様から読者の方5名にプレゼントをいただきました。ご希望の方は、①住所②氏名③性別④年齢⑤電話番号⑥このコーナーを含む本誌の感想を記入の上、ハガキにて下記までお申し込みください。

■宛先 〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2
独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係

■応募締切 平成27年1月31日(土)(消印有効)

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
いただいた個人情報の目的外利用はいたしません。